

令和7年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター 第6号 令和7年7月10日発行

TEL:0229-32-3115

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1. 管内生育経過

表1 生育調査結果

表1 生育調査結果				7月1日調査結果				7月10日調査結果					
調査地点		品種	区分	田植 (播種)日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂長 (mm)
移植	田尻 (桜田 高野)	ひとめ ぼれ	本年値	5月3日	65.5	642.1	9.9	38.6	76.2	597.3	10.6	35.6	6.3
			前年値	5月4日	66.9	607.9	9.6	40.7	79.0	576.9	10.5	37.0	9.8
			平年値	5月5日	58.6	558.4	9.8	43.2	70.3	515.8	10.7	40.3	4.7
			前年比・差	-1	98%	106%	0.3	95%	96%	104%	0.1	96%	▲3.5
			平年比・差	-2	112%	115%	0.1	89%	108%	116%	▲0.1	88%	1.6
	鹿島台 (広長)	つや姫	本年値	5月15日	61.2	408.4	9.9	41.0	74.5	458.2	11.1	39.7	0.2
			前年値	5月3日	62.3	476.8	9.1	39.7	71.9	499.2	10.3	39.4	0.7
			前年比・差	+12	98%	86%	0.8	103%	104%	92%	0.8	101%	▲0.5
	南郷 (和多 田沼)	金の いぶき	本年値	5月19日	55.0	394.0	9.5	40.9	71.7	501.5	10.9	38.8	0.4
			前年値	5月18日	58.7	539.5	9.1	39.5	71.8	511.9	10.1	37.5	0.8
			平年値	5月7日	55.0	536.0	10.4	40.9	67.6	538.2	11.4	37.9	0.8
			前年比・差	+1	94%	73%	0.4	104%	100%	98%	0.8	103%	▲0.4
			平年比・差	+12	100%	74%	▲0.9	100%	106%	93%	▲0.5	102%	▲0.4
乾田 直播	小牛田 (北浦)	萌え みのり	本年値	4月7日	53.4	504.8	8.4	43.0	67.4	686.9	9.9	40.7	0.7
			前年値	4月28日	38.5	339.4	7.5	40.9	51.6	408.5	9.0	42.2	0.1
			前年比・差	-21	139%	149%	0.9	105%	131%	168%	0.9	96%	0.6

※平年値は過去5年間の平均値。つや姫、萌えみのりはR6年からの調査。

ひとめぼれは、草丈・茎数が平年値を上回っています。幼穂長は約6mmに達しており、前年よりはやや遅いものの、平年よりは進んでいます。今後予報通りの気温であれば、このほ場での出穂予測、ならびに管内出穂盛期予測は7月28日前後となります(平年出穂盛期は7月31日)。

移植ほ場では前年に比べ葉数はやや多く、幼穂長はやや小さい傾向です。

茎数が平年を上回るほ場では、葉色が薄い傾向があり、今後の動向に注意が必要です。

2. 今後の管理について

高温が続いています。本年は施肥窒素の減少が早く(古川農試調べ)、今後も葉色の低下が予想されます。一発型肥料を使用しているほ場を含め、葉色が低下しているほ場では減数分裂期に追肥を行いましょう!!

中生までの品種ではそろそろ中干しは終了し、幼穂に水を与えましょう。

表2 穂肥窒素の施用時期と影響

	穂数の 増加	1穂穎花数 の増加	1穂穎花数の 減少防止	登熟の 良化
幼穂形成期	○	◎	○	
減数分裂期		○	◎	◎

減数分裂期の追肥は登熟を良くするほか、特に高温時には、出穂後の葉色を維持することで基粒などの高温障害の軽減につながります。

追肥にあたっては、右表3と表4の生育ステージ予測を参考としてください。

表3 減数分裂期の生育量の目安と追肥量

品種	減数分裂期(幼穂長3～12cm)			
	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD値)	追肥量 (窒素成分) (kg/10a)
ひとめぼれ	66～69	450～500	35～37	1.0
まなむすめ	-	500～550	36～38	-
ササニシキ	-	550～580	32～34	1.0～1.5
つや姫	-	-	-	-
だて正夢	76～82	380～420	37～39	2.0
金のいぶき	80～85	490～540	30～32	1.0
みやこがねもち	-	420～470	33～35	1.0

○今後の生育ステージについて

表4 管内の田植始期～田植え終期移植ひとめぼれの

生育ステージの予測

移植日	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
5月4日	6/30-7/5	7/6-7/12	7/19-7/25
5月11日	7/4-7/9	7/11-7/17	7/24-7/30
5月19日	7/12-7/16	7/20-7/24	8/2-8/6

※幼穂形成期、出穂期は主稈葉齢予測モデル(普及に移す技術第80号)と7月10日発表の気象庁1か月予報気温を用いて予測。減数分裂期は生育調査ほの平年値から出穂日の13日前として予測。

表5 幼穂長と出穂前日数

幼穂長 (mm)	生育 ステージ	外形	出穂前 日数
1	幼穂 形成期	止葉抽出	25
2			20
8～15			18
30	減数 分裂期		15
80			12
120			10
195		穂ばらみ始め	6
205			4
220			2～1
220		出穂	0

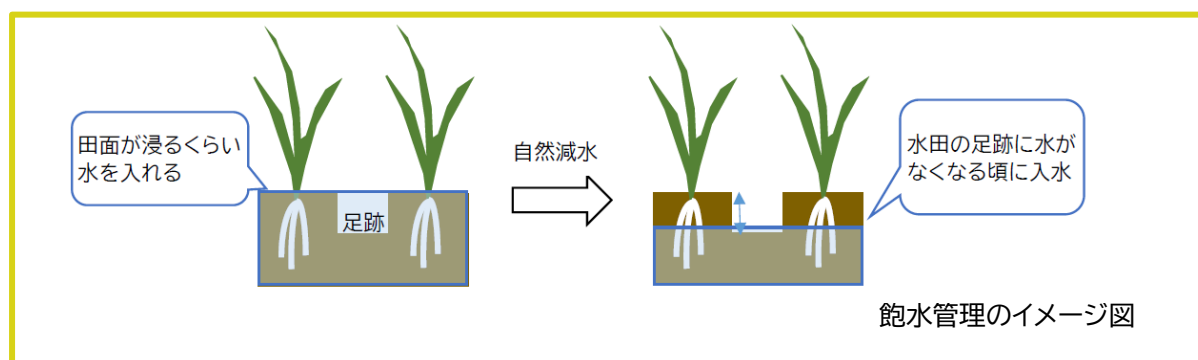
今後予報通りの気温の推移であれば、表4および管内の田植盛期から、出穂盛期は7月28日前後と予測されます(平年7月31日)。

○水管理

出穂直前は稲が水を必要とする時期で、この時期に水分が不足すると、幼穂の発育が妨げられ、収量・品質に影響します。基本は、出穂前は間断灌水(湛水と落水を数日おきに繰り返す)をします。

<高温時の水管理>

高温時に湛水状態を続けると、夜間の水温が高くなり稲体を消耗させてしまいます。用水が限られる場合には、稲体の夜温を下げやすく、根の活力を維持できる「飽水管理」が有効です。



なお、減数分裂期ごろ日平均気温 20℃以下、または日最低気温 17℃以下が続く場合は、用水状況に配慮しながらできる限りの深水管理を行いましょう。7月9日気象庁発表の2週間気温予報では、7月20日まで低温の予報はありませんが、今後も最新の予報に注意してください。

○病害虫防除(発生量等の情報は、県病害虫防除所発生予察第5号(7/2発表)による)

①いもち病 発生時期:平年並(全般発生期 7 月第 3 半旬) 発生量:平年並

鹿島台アメダスの観測で6月11、24、27日に感染好適条件が出現しています。

※感染好適条件:葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間 10 時間以上、平均気温 15～25℃、前 5 日間の平均気温 20～25℃)が出現した日。

ほ場を観察し、病斑を発見したら直ちに防除を行いましょう。



進行型病斑

停滞型病斑

褐点型病斑

図1 いもち病の病斑

②斑点米カメムシ類 発生時期:やや早い 発生量:やや多

ほ場周辺の管理と出穂後の薬剤防除の2本立てが基本です。

【発生源の管理】

水田周辺の牧草地等の草刈は 7 月中旬までに実施しましょう。

【水田の管理】

水田畦畔の草刈りは水稻の出穂 10 日前までに行いましょう。

【水田の薬剤防除】

- ① 基本の防除体系: 1 回目は穂揃期、2 回目は穂揃期の 7～10 日後に実施しましょう。
- ② イヌホタルイ発生水田の場合: 1 回目の防除時期を早めましょう。 1 回目は出穂始～穂揃期に、2 回目は穂揃期の 7～10 日後に実施しましょう。



図2 県内の主要種である
アカスジカスミカメ

③紋枯病 発生量:やや多

高温多湿が発生を助長するとされており、長期予報では発生しやすい気象条件となることが予想されています。昨年の発生量は多く、上位葉に進展し倒伏したほ場も見られましたが、前年発生ほどは伝染源が残っているため発生しやすくなります。

穂ばらみ期の発病状況に応じて、薬剤防除を実施しましょう。

紋枯病の要防除水準(収量5%減)

穂ばらみ期の発病株率

○ひとめぼれ:18% ○ササニシキ:10%



図3 紋枯病の発病株
(宮城県病害虫防除所 HP より)



④イネツトムシ(イチモンジセセリ)

主に直播栽培において、多発した場合減収要因となります。
老齢幼虫には薬剤の効果が劣るため、若齢のうちに防除することが重要です。

防除適期:第 2 世代若齢幼虫発生盛期

(7 月下旬～8 月上旬)

防除水準:1株当たり ツトが 0.5 個以上

図4 イチモンジセセリの成虫
(右上)、幼虫(左)、ツト(右下)
(宮城の稲作指導指針より)

薬剤は右の QR コードより、農作物病害虫・雑草防除指針サイトにて
お調べいただけます。 ※必ず最新の登録情報をご確認ください。
※必ず最新の登録情報をご確認ください。



7月3日 仙台管区气象台発表 東北地方太平洋側1か月予報(7/5～8/4)

【気温】 10 10 80

【降水量】 50 30 20

【日照時間】 10 30 60

凡例 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

・気温は1か月を通じて高く、
特に期間の前半が高い予報です。

・降水量は少なく、日照時間は
多いでしょう。

農作業中の熱中症に注意しましょう！！

～熱中症予防のポイント～

- 暑さを避ける
- こまめな休憩と水分補給
- 単独作業は避ける
- 熱中症アイテムの活用

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



(図の出典:農林水産省熱中症対策パンフレット)

～無事に家に帰るまでが農作業です～